

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200586		
法人名	医療法人 和楽会		
事業所名	あいあいフレンドリー さくら		
所在地	倉敷市串田660番地		
自己評価作成日	平成29年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivvosyoCd=3390200586-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地、近くに公園や自転車道など散歩する場所も多くあり、自然に囲まれた環境にあります。地域の民謡クラブの方により民謡教室、音楽療法のボランティアが来苑されます。また、足の神様へのお参りなどの行事を入居者様は楽しみに生活されています。入居者様の声を大切に、月に一度は食べたい物を皆さんで手作り献立を楽しみにされています。施設内に診療所があり、医療連携もとれており、よって定期受診を受け健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

離職者が少なく、勤務年数の長い職員が多い。職員同士の関係も良く、何でも話し合える雰囲気があり、働きやすい職場となっている。チームワークで取り組み、用者の穏やかな生活の支援ができています。利用者一人ひとりの得意な事、集中して取り組めることを探し、役割を持って生活する喜びを提供している。支援センターから大量の使用済み切手を預かり、きれいに切り取る作業をし、海外医療支援として、役立ててもらっている。生活の中での手伝いも継続してできるように支援している。生活意欲を引き出す多様なプログラムで、これまで培ってきた社会性や、生活習慣が存続できるように援助し、利用者の生きる力に繋げている。グループホームの理念である「笑顔を決やさず、共に笑い、共に泣き、共に迷い、共に共感できる一日にしよう」を念頭に置いた温かい家庭的な支援が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は名札の裏のカードに記入されている。グループホーム独自の理念もあり、ホールや台所など職員の目のつくところに貼って確認、共有できるようにしている。	我が家となって、子や孫の様な存在になれるようにとの思いで、グループホーム独自の理念を作っている。職員は「笑顔を絶やさず、共に共感できる一日」を過ごす事ができるよう、常に念頭に置いて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民謡クラブの方による、「民謡教室」を月に1回開いている。年に2~3回その他のボランティアの方による演芸もある。地元の小学生の来苑もある。	お茶会や文化祭等の公民館活動に参加し、地域の人達と交流している。職員が地区の溝掃除に参加したり、近所の人達が施設内の草取りをしてくれたり、地域の一員として支え合う関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援センターを基点として、地域の民生委員や老人クラブ、婦人会等と認知症の理解支援の方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、婦人会、ご家族様、支援センターの職員、近隣のグループホームの方などに参加して頂き2か月に1回開催し、近況報告を行い意見交流している。	活動内容と予定、現状と課題を報告し、意見をもらっている。公民館活動や、地域の避難場所等の情報提供を受け、共有を図っている。他グループホーム管理者からの看取りの経験談等、参考になる意見・提案も多くあり、ケアに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、事故報告や、現状報告を行っている。6月には、実地指導を受け、事業所としての取り組み方について色々ご指摘、ご指導いただいた。	支援センター職員が運営推進会議に出席してくれ、事業所の現状を理解してくれている。市担当者とも、情報を共有し、指導や助言をもらい、連携体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	近くに川があったり、少し歩いたところに車の通行の多い通りもある為玄関は施錠させていただいている。身体拘束については、常日頃からどういった行為や声掛けが対象となっているか、また、そのリスク等について職員間で意見交換している。	「接遇マナー委員会」で言葉や態度による抑圧についても研修している。上から言うのではなく「お願いするように」言う事、「ありがとう」と言う事、後方から声かけしない事等、具体的な支援方法についても話し合っている。拘束衣を希望する家族と話し合い、使用しない対応を理解してもらった。	外部の研修や、法人内の勉強会に参加しているが、グループホーム内でも定期的な研修開催に取り組んで頂きたい。職員一人ひとりの意識の向上を図り、より安全で安心な生活の支援に繋がっていくことに期待を寄せる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所として「接遇マナー委員会」を月に1度行っている。それに参加した職員が内容を持ち帰って職員全体に伝えたり、意見を求めたりしている。また、介護時の様子をお互い気を付けて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が成年後見制度を利用して、施設と本人、関係者がいい関係作りを築くために話し合いを持てるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に書面に沿って解かりやすく説明を行い、その際、疑問等あれば申し出ていただき説明している。理解納得後に同意のサインをいただいている。改定の際も文章にて説明、サインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。直接要望を伺った時も職員全体で共有し、ケアの統一に努めている。 また、運営推進会議への出席も求め意見を伺うようにしている。	毎月発行している「フレンドリー通信」や、請求書と共に送っている担当職員からの手紙で、暮らしの様子が良く分かり、意見や要望は出しやすい。普段からも、コミュニケーションを図り、言いやすい雰囲気を作り、家族と話し合うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内管理者会議で現状報告すると同時に職員の意見、提案等ある場合は発表している。グループホーム内でもカンファレンスを開催、意見を聞く機会を作っている。	管理者と共に、開設当初から勤めている職員が多く、連携体制が整っている。職員一人ひとりの意見や気付きは、職員全体で話し合い、お試し期間を経て、意見をまとめて変更し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価、課業チェックを行い、その内容を把握している。事業所の代表者やグループホーム内では、施設長との面談の場を設け、話を聞く時間を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を求め、事業所内の勉強会へも積極的に参加するよう勧め、その内容について、他の職員へも伝えるようにしている。研修への参加は概ね勤務扱いとなる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加により、個々のネットワークを作るとともに、近隣のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加して、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時等本人から聞き取りを行いその問題に耳を傾け、少しでも安心して頂けるよう声掛け気配りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時等不安なこと、ニーズに耳を傾け家族にも安心してもらえるよう随時コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容を入居時ご本人様、ご家族様に説明し納得いたうえで同意を頂いてサービスを開始している。他のサービス利用も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜びを分かち合い、困った事があれば共になやんだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に今の状況を説明したり「家族の名前をよく口にする」等家族の方へ話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と電話、手紙で連絡をとったり、外出したりとホーム外の人との交流も続けている。	併設のデイサービスに出向き、友人との時間を楽しむ人もいる。家族と共に、自宅に戻ったり、親戚の家に行ったりする人もいる。職員とも、スーパーに出かけたり、お寺にお参りに行ったりし、これまでの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、一緒に作業をして関わり合いを作ることにより孤立せず過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してもいつでも訪ねてもらうよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望に合った生活をして頂けるように努めている。得意な事や趣味を尊重している。	聞き出し難しくなっているが、ゆっくり過ごす中で手に触れる、足をさする等して、表情が穏やかになる時間を作り、聞くようにしている。切手切りや、お手伝い等、できる事や、集中して取り組める事を探し、誰かの役に立つ喜びを感じてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に話を聞きその人らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残し変わった事や注意すべき点は必ず申し送り、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングをチェックし、定期的にケアの内容について話し合っている。プランの見直しを家族、職員、関係者で決めている。	1年に1回、変化があればその都度見直し、作り直している。毎日のモニタリングを活かし、家族の要望も聞いている。「説明を受け一緒に話し合っている」とほとんどの家族が答え、家族アンケートの結果からも、全員の関わりが見てとれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一ヶ月のモニタリング表に基づいて現状を把握、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の方の現況に合わせて、ご家族様との連携を図っている。体調変化やADLのレベル低下に対し細やかな対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺は自然につつまれみどりの多い場所にあり、時々散歩、ドライブにも出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を聞いてかかりつけ医への受診、施設内の診療所との連携で健康管理を行っています。	併設診療所の医師の往診があるが、ほとんどの人は気分転換を兼ねて、職員と一緒に徒歩や車椅子で受診している。専門科受診にも職員が同行し、医療情報の共有を図っている。一泊入院の目の手術の時は、職員も病院に泊まり、付き添った。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の看護師による健康管理の訪問があり、入居者の状態で気になる事があれば相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は当施設の主治医が連携を図り、入院中も情報が入ってくるので家族も安心して早期退院を決められる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から面会に来られる家族様とコミュニケーションを図り終末期のケアや対応について話し合い、方針を取り決めている。看取り希望も話し合いに含み職員も共有している。	診療所医師のバックアップがあり、夜間や急変時に対応してくれている。医師、看護師、職員との連携体制が整い、職員も不安なく取り組むことができている。「できればここで最後まで」と願う本人や家族の思いを汲み取り、家族の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の際、速やかに対応が出来る様緊急連絡先や初期対応のマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定で避難訓練の実施を行っている。	業者の協力を得て、消火器の使い方や、スプリンクラー作動後の止め方等の訓練をし、避難経路の確認もしている。近所に住む職員家族の協力もあり、近隣の人達にも声をかけてくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人に応じた言葉かけをし相手の尊厳を傷つけないよう配慮した接し方をするよう努めている。	職員には「自分がされたらどんな感じがするか？」と考えてみる事を提案している。年長者として尊重し、言葉かけには気を付けている。職員間の伝達では個人の特定を避け、部屋番号を使う事とし、プライバシー保護にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境づくりや選択しやすい提供の仕方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活習慣になるべく近づけるよう職員間で話し合い、ご本人様の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望によってカット、カラー染等をなじみの美容師さんをお願いして気分転換、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの、楽しんで食事がとれるよう一緒に準備、片づけを職員一緒に行いやりがいと感じて頂いている。	副菜は厨房から届くが、ご飯と汁物は各ユニットで手作りしている。ミキサー食を嫌う人にはムース状の食品を提供する等、食が進むように工夫をしている。反応を見ながら、楽しく食事をし、利用者の好みや要望を厨房に伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェックし、摂取量が少ない時はOS1や栄養価の高い物を取り入れながら脱水、低栄養にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの補助と義歯の洗浄剤の使用で、清潔を保つように努めている。また、希望者には定期的に歯科受診を行い口腔内衛生を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の利用者様の排泄するタイミングにあわせ、トイレ誘導し見守り、声掛けを行い自立に向けて支援を行っている。	排泄チェック表を参考に、定期的に誘ったり、素振りがあれば声をかけたりし、気持ちよくトイレで排泄できるように支援している。一人ひとりの生活リズムを把握し、時間をかけてトイレでの排泄を待つこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動で便秘予防に努めているが、それでも改善できない場合は腹圧マッサージを行ったり、主治医に相談して内服薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調によって週3回入浴出来ない時もあるが、入浴日、回数はご本人様の希望に添えるよう支援している。	週3回を目安に、午前中に入浴を楽しんでもらっている。着脱時から体の動きや、皮膚の状態をチェックし、体調の改善に役立っている。さりげなくタオルをかけて隠す等して、安心して入ってもらえるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調、体力に合わせて居室で休んだり、ソファでくつろいでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の現病と内服薬の表を作り職員が把握し、症状の変化があればすぐ主治医に報告し、指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人に合った役割を見つけ、やりがいのある日常を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望される利用者様は買い物に連れて行ったり、苑でお出かけを計画して多くの利用者さんに気分転換を図って楽しみを持っていただけるよう支援している。	スーパーや美容院に出かけたり、公園や診療所まで散歩したりして、日常的に外に出る機会を作っている。誕生日には外出に行く事もある。家族を誘って神社の敬老会行事に参加し、お粥の接待を受け楽しんでもらった。足の神様へのお参りも継続しており、利用者の楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様管理で買い物をされる方、ご本人様、ご家族様の希望で施設で預かって買い物の際一緒に行く方、職員が任せられ買ってくるなどその方の希望に託されて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りはスムーズに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂く飾り付けを一緒に作成して居住空間に飾っています、入浴の際には入浴剤を入れて心地よさを感じて頂いている。	清潔を保ち、気持ちよく過ごしてもらえるように掃除のタイミングや分担を決めている。掃除が行き届き清潔で明るい共用空間となっている。カーペットを敷き、自宅の居間で過ごすように、足を伸ばして座るスペースもあり、思い思いの場所でくつろいで過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で居室で過ごしたい時もあり、また気の合う方とソファで語らえるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた椅子、枕など馴染みのあるものを持ってきて過ごされている。	ベッド、タンス、クローゼット、洗面台が備え付けてあり、すっきりと片付いている。使い慣れた椅子、テレビ、思い出の品や写真等を持ち込んでもらい、その人らしく居心地の良い居室作りを検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、お風呂等移動の際の安全かつできるだけ自立生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200586		
法人名	医療法人 和楽会		
事業所名	あいあいフレンドリー すずらん		
所在地	倉敷市串田660番地		
自己評価作成日	平成29年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200586-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地、近くに公園や自転車道など散歩する場所も多くあり、自然に囲まれた環境にあります。地域の民謡クラブの方より民謡教室、音楽療法のボランティアが来苑されます。また、足の神様へのお参りなどの行事を入居者様は楽しみに生活されています。入居者様の声を大切に、月に一度は食べたい物を皆さんで手作り献立を楽しみにされています。施設内に診療所があり、医療連携もとれており、よって定期受診を受け健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は名札の裏のカードに記入されている。グループホーム独自の理念もあり、ホールや台所など職員の目のつくところに貼って確認、共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民謡クラブの方による、「民謡教室」を月に1回開いている。年に2～3回その他のボランティアの方による演芸もある。地元の小学生の来苑もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援センターを基点として、地域の民生委員や老人クラブ、婦人会等と認知症の理解支援の方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、婦人会、ご家族様、支援センターの職員、近隣のグループホームの方などに参加して頂き2か月に1回開催し、近況報告を行い意見交流している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、事故報告や、現状報告を行っている。 6月には、実地指導を受け、事業所としての取り組み方について色々ご指摘、ご指導いただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	近くに川があったり、少し歩いたところに車の通行の多い通りもある為玄関は施錠させていただいている。身体拘束については、常日頃からこういった行為や声掛けが対象となっているか、また、そのリスク等について職員間で意見交換している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所として「接遇マナー委員会」を月に1度行っている。それに参加した職員が内容を持ち帰って職員全体に伝えたり、意見を求めたりしている。また、介護時の様子をお互い気を付けて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者が成年後見制度を利用している。先日、遠縁の方と、後見人の方に同席していただき、緊急時の連絡方法などを話あった。その内容を職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に書面に沿って解かりやすくせつめいを行い、その際、疑問等あれば申し出ていただき説明している。理解納得後に同意のサインをいただいている。改定の際も文章にて説明、サインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。直接要望を伺った時も職員全体で共有し、ケアの統一に努めている。 また、運営推進会議への出席も求め意見を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内管理者会議で現状報告すると同時に職員の意見、提案等ある場合は発表している。グループホーム内でもカンファレンスを開催、意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価、課業チェックを行い、その内容を把握している。事業所の代表者やグループホーム内では、施設長との面談の場を設け、話を聞く時間を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を求め、事業所内の勉強会へも積極的に参加するよう勧め、その内容について、他の職員へも伝えるようにしている。研修への参加は概ね勤務扱いとなる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加により、個々のネットワークを作るとともに、近隣のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加して、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの表情、様子を出来るだけ早めにキャッチし声掛けをしている。本人様が要望を言えない場合は時間を掛けて本人様の行動を観察しながら要望を見つけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族様にしっかり要望を聞き、それに沿ってサービスを検討する。健康管理は医療連携をとり安心、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容を説明し特徴効果を理解したうえで、同意を頂き当苑での生活に慣れて頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であり、職員が全てをせずには、出来る事を探しお願いして助け合い、感謝の言葉を言い合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人の状態を伝え信頼関係を作り、どのように支援していくかを一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会事にまた会いに来てもらえるよう声掛けを行っている。同施設内の交流も図り、馴染みの方に会いに行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握に努めている。会話の様子を見守り、トラブルを事前に防止するよう行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	修了してからも相談していただけるよう日頃からご家族様と接するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様から希望を聞き、少しでも希望する生活が送れるよう職員間で検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出の物や家族の写真などを持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を記録し、申し送りをして現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングチェックし、本人の状態、体調の変化に合わせてプランの見直しをする。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1か月間のモニタリングを各職員で行い、それにより得た情報についてを話し合いをし介護計画の見直しに役立てる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本様人、ご家族様の希望に沿って個々に合った支援を職員間で話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来ていただき地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の希望のかかりつけ医との連携を行い、施設内に診療所が内設しているので、体調管理や、緊急時には即座に対応できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の体調管理で訪問があり、分からない事があれば相談し適切な処置を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は利用者が不安にならないように面会をし病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様、ご家族様と話し合いをし書類を作っている。体調変化がみられた時は主治医から家族に説明があり、終末期の対応指針を作る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は、主治医、看護師の指示を仰ぎ、職員は落ち着いて対応できるよう、日々話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年2回実践し、落ち着いて利用者を避難できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の心に寄り添い共感し尊敬の念を持ち、あるがままの存在を受け入れるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己開示の可能な入居者様のご希望にはできる限り対応をしている。自己開示が困難で意思表示の厳しい入居者様には、表情などで希望をくみとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に生活リズム、体力面などに違いがあるため型にはめてしまうのではなく、一人一人のペースを見極めて職員間で話し合いをしながら無理なく楽しく過ごせるように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じてヘアカット、ヘアカラーの施行計画をたて、毎日の更衣は一人一人の好み、動きやすさを考えながらお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、後片付けの手伝い等が可能な入居者には気持ちをくみ取りながら職員とともに作業にかかわって頂く。食べるときは、一人一人が笑顔で食事を楽しめるような雰囲気作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分摂取量は記録に残し、状況に応じて栄養士と相談しながら、形態を変更している。また、OSIや高栄養食材をとりいれたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア-の声掛けを行い必要に応じて口腔内チェック、仕上げ等の介助をおこなう。希望者には、歯科往診が利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し本人の排泄のタイミングを計りトイレ誘導を行い支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便確認をし下痢や便秘が続く際には主治医に相談し薬を処方してもらっている。その他体操や水分の適切な摂取など工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調により週2～3回の入浴、体力に応じて入浴時間を調整したりシャワー浴や清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の様子を見ながら居室で休息していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より薬の変更指示があった際は連絡ノートで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけ、掃除、洗濯物を干したり、たんだりを手伝っていただいている。壁画の作成も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出希望に応じて対応している(届を記入してもらう)時候の良い時は周辺の散歩をしたり、近くのスーパーへ買い物に出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は自己管理をしている。ご本人様、家族様の希望があれば施設にて預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はご本人様の希望にて支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は常に清潔にたもつように努めている。施設内では飾りつけなどで入居者様に季節を感じて頂けるよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用様との会話をする場やレクリエーションの参加などやりたい事を思い思いにできる場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では今まで使い慣れたものなどを使っただけで本人様が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時など安全に移動するための手すりをつけている。台所も広く作られており一度に数名が作業できるように作られている。		